沖縄市文化財調査報告書第２１集

池原のウスデーク

１９９８年
沖縄市教育委員会

はじめに

私たちの住んでいる沖縄市は、日毎に町の様子や人々の暮らしも変わりつつありますが、古い時代から人が住み、暮らしてきた歴史のある町で、祖先の残した文化遺産も数多く残されています。文化遺産はグスク跡や貝塚、あるいは建造物などのように目に見えるものだけではありません。年中行事や伝統芸能など「無形の文化遺産」も数多くあります。そのひとつに「ウスデークと獅子舞」があります。

当市において現在、ウスデークは7ヵ所の地域で継承されていますが今回はその中から字池原を紹介します。調査は後継者の高齢化を念頭におき、行事の経過を写真・ビデオで記録しました。報告書の作成にあたっては、行事の経過、シーシウンチケー、ウスデークの楽譜などを主に紹介します。

おわりに、本報告書の発刊に際し御苦労をされた多数の関係者、さらに地元のウスデークと獅子舞の継承者の方々、及び自治会長の佐渡山安光氏、他有志の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、今後の変わらぬご協力をお願いいたします。

平成10年3月

沖縄市教育委員会

教育長　比嘉憲秀

〔目　　次〕

Ⅰ，池原のウスデークについて …… 2

Ⅱ，採　　譜 …… 5

Ⅲ，歌詞について …… 21

Ⅳ，結　　び …… 27

Ⅴ，関係資料 …… 27

（例　　言）

1　本報告書は、沖縄市教育委員会が平成９年９月16日に実施した調査の成果と、小林公江氏が作成した楽譜を掲載した調査報告書である。

2　調査員及び原稿作成

①山田義夫（博物館長）

②宮城利旭（文化財係長）

③宮城昭美（文化財嘱託）

④坂井克行（文化財臨時）

⑤嘉陽律子（　〃　〃　）

⑥前田一舟（　〃　〃　）

3　調査及び本書発刊に際し、下記の方々の絶大な御協力と御教示をいただきました。記して謝意を表します。（敬称略）

①新島キク（池原のウスデーク・ニートゥイ継承者）

②比嘉賀盛（沖縄市文化財調査審議会委員）

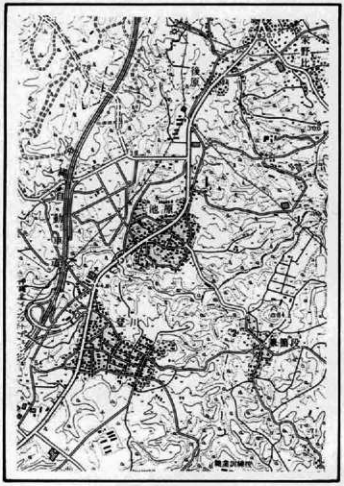
③比嘉悦子（　　〃　　〃　　）

④小林公江（京都女子大学文学部助教授）

⑤小林幸男（京都教育大学教育学部助教授）

⑥表紙題字は吉浜靖起氏の揮毫による。

Ⅰ　池原のウスデークについて



〈位　置　図〉

1）池原の概況

沖縄市は沖縄本島中部に位置する。かつては純農村地帯であったが、戦後は膨大な地域を米軍基地として接収されたため、基地に依存する経済から基地の街としての印象が強い。1974年４月１日に美里村とコザ市が合併して沖縄市がスタートした。

池原は本市の最北端に位置し、石川市・具志川市との境にあり、方言ではイチバルという。当字においては緑が豊かな地域で、基地の町のイメージからは想像もつかないほど静かなたたずまいである。さらに旧暦の年中行事も数多く継承されている。戦前、戦後を通じて農業が盛んであり、近年は花卉栽培農家が多く、市内でも花どころとして知られるようになってきた。

戦前と現在の世帯数及び人口を比較すると、戦前は約150世帯・約500名を有し現在は約746世帯2515名である。

2）沖縄市におけるウスデーク

ウスデークは沖縄各地に伝わっている祭祀舞踊である。沖縄市では池原・登川・知花・越来・胡屋・上地・山内の７ヵ所で行われている。演じられる日は一定してなく、旧暦の８月10日に胡屋・山内、８月15日は池原・知花・越来、９月９日には登川、９月18日が中の町などである。

時期を異にする点については、明治39年～40年の新聞記事に品評会等(注1)における余興のひとつとしてウスデークが踊られたことが紹介されている。池原では墓新築祝いのカリーといって墓の中でウスデークを踊ったり、子供が生まれた時など、不特定の日にもウスデークを行ったという伝承がある。さらに比嘉悦子氏(注2)によると「臼太鼓が特別な行事にかかわる祭祀芸能ではなく、むしろ村の祭祀儀礼の行われたあと、それを喜び祝うウチハレの踊りで、庭の芸能として発達したものであると思われる」という見解を述べている。

3）池原のウスデークの由来と目的・継承

かつては豊年祈願としてあるいは祭祀行事の締めくくりとして踊られたウスデークは、今日では各家庭の繁栄を願う景気づけとして踊られている。ウスデークについての由来は、「臼をたたいて踊った」のが始まりという伝承のみである。

継承については、戦前から行われていたという事だけで、詳しいことについては聞き取りが出来なかった。第二次大戦で中断したものの戦後復活し、その後、理由は定かではないが再び途絶えた。昭和49年に「ウスデークの経験者が健全なうちに復活させよう」という声の高まりとともに、19年ぶりに再度復活された。現在ウスデークの踊りの時に使用されているテープは先述の復活の際に松下盛一さん宅におばあさんたちが集まり録音したものである。当時は参加者が約60名と多かった。参加者は年々少なくなってきてはいるが、毎年行われている。

4）池原のウスデークのあらまし

伝承によると昔は、ウスデーク当日の朝に朝ウガミと称してノロがニーチュガミ（神屋）・神アサギ・イーヌアシビナーの三ヶ所において「ウスデークを行います」という報告の拝みを行った。ノロが不在になってからは、自治会長と拝みの上手な人・字の有志達が行うようになったが、現在では島袋盛勇氏（元自治会長）が代行している。（旧８月15日のシーシウンチケー順路図を参照）

ウスデークは午後３時頃から始まる。まず神屋で自治会長と有志達が「今日の祭がとどこおりなく行われますように」という祈りをする。その後、獅子舞を行う青年によって獅子が神屋入口に鎮座[注3]され、そして三線でカリーがつけられる。同じ頃に並行して隣の神アサギ前の道ではウスデークが３曲[注4]踊られる。現在、曲はカセットテープレコーダーに頼っているが、かつてはニートゥイに先導されて全員が歌いながら踊っていた。神アサギ前の道で踊りが終わると神屋へ獅子を迎えに行き（シーシウンチケー）そこにウスデークが着くと「シーシウンチケー」が開始される。旗頭を先頭に獅子、三線弾き、太鼓、ウスデークと列が続く。順路は神屋を出発してシチャヌアシビナーに至る。途中の要所では、旗頭を中心に獅子が左廻りを行い厄払いをする。厄払いを行う場所は、神アサギ前の道、ヒージャヌメーの道（1997年はここでの所作は行っていない）、ナーカアジマー、アガリマーチョーグムイ、シチャヌアシビナー入口の道、イーヌアシビナー、シチャヌアシビナー舞台前などの順番で行う。それが終わると、獅子は舞台中央背後に鎮座される。その後、イーヌアシビナーではウスデークが踊られ、そこが終わるとシチャヌアシビナー舞台前に移動して踊りが行われ終了する。最後はウスデークの参加者がカチャーシーでしめくくる。

午後６時頃から70才以上のお年寄りを招待して恒例の敬老会と８月15夜が行われる。池原自治会の敬老会のきっかけは、昭和８年に渡地川橋の落成を記念して当時有志だった故・島袋増三氏（屋号与那嶺）と故・島袋瑞生氏（屋号ハンタ小）の両氏が行ったのが、その始まりであると言われている。

敬老会は古典音楽斉唱で幕があく。演目は各班の代表、老人クラブ、婦人会、芸能クラブの方々、そして自治会内の琉舞・民謡古典の修得者による舞台演舞も披露され舞台を盛り上げていく。途中で度々雨が降ったり止んだりしたが帰ろうとする人も少なく、余興の後半からは月が俄に顔を出し、招待されたお年寄りをはじめ多くの区民は楽しいひとときを過ごしていた。

舞台演目終了後、獅子は「シーシウンチケー」を行って神屋に送り届けられる。帰りの際も、往路と同じ要所において（イーヌアシビナーを除く）厄払いをする。神屋に着くと獅子はドラムカン状の保管庫に安置される。参加者は手をあわせ、祭がとどこおりなく無事にすんだ感謝の詞とともに酒を供え、三線が弾かれ静かに幕を閉じる。

伝統行事を支えている方々の高齢化や欠員等により、参加する人数も年々減少する中で行事の内容も省略されてきている。古式ゆかしいこの祭りを支えているのは「行事を絶えさせてはいけない」という区民の熱い思いなのであろう。普段は静かな村が、400人余の見学者で賑わった一夜であった。

5）ウスデークの歌詞について

ウスデークの歌詞は、他市町村のウスデークに用いられている歌詞と大きな違いはない。歌詞は読み人知らずの秀歌が多く、歌の内容は冒頭には首里の国王や村の親方を褒め讃えたもので始まり、それに続くのは子孫繁栄を願う歌、男女の交遊、自分の村を褒めた替え歌で村の幸を願う、航海安全祈願等の意味を持つ歌となっている。

池原においてもかつては全曲を踊り歌っていたが、長すぎるということと、ウスデークの中心を担う方々の高齢化などもあって、現在では省略され歌の２～３番までしか踊られていない。

6）ウスデークの衣装

衣装は復活する以前は胴着・カカンを着られている方もいたが現在は全員同じ出で立ちである。紺地（クンジー）の着物で紫の帯を前に結ぶ。白足袋を履き、頭には鉢巻きを額の上でリボン結びにする。この鉢巻きは色を分けており、紫はチヂミウッチャーで、水色は踊り手である。衣装は個人負担である。

7）ウスデークの小道具

現在は、四ツ竹、日の丸の扇子２本を持って踊っている。四ツ竹は手に取りやすいように工夫をこらし、それぞれが色とりどりのビーズで繋げている。昔は小道具を持っての踊りはなく、全部手踊りであった。ニートゥイの太鼓はトーチヂミーといって今のより大きく、チヂミの中央付近には左御紋の図柄が書かれてあった。

8）ウスデークの踊り方

踊りの列はニートゥイを先頭にチヂミを待ったグループ、踊り手のグループと続く。何れも年長者や熟練者が先で、演じる場所に着くと反時計回りに円陣を作る。

踊りの所作は拝む手（両手を合わせて祈る）、押し手（手のひらを立ててゆっくりと前に押し出す）、払い手（両手をもって左や右を払う）、捧げ手（神前にお供えするような動作）、こねり手（手首を軽くまげてまわす動作）などがある。

足さばきも左や右に踏み出し、鼓の音に合わせながら一歩一歩進み出て踊る。踊り手たちは四ツ竹を首にかけ、帯に日の丸の扇子をさしており「扇の舞・四ツ竹の舞・素手の舞」などを踊る。踊りを終えると散列し、次の場所に移動する。

シチャヌアシビナーでは、最後の曲になると１人ずつ円陣から次々と抜け出て、まだ何名か円陣にいる間に終わる。それと同時にテンポの早いカチャーシーの曲に変わり賑やかにカチャーシーを舞いながらウスデークを終了する。

（注１）　品評会：産物、製品などを集めて品評する会

（注２）　比嘉悦子「臼太鼓の音楽」『琉球文化と祭祀』　ひるぎ社　1987年

（注３）　かぎやで風節・恩納節・中城ハンタメー節の３曲演奏。これらの曲はお祝いの座で座開きによく歌われるおめでたい歌である。

（注４）　首里節（２番まで）・伊計離節（２番まで）・恩納節（１番のみ）

Ⅱ 採　　譜

1）楽譜作成にあたって

1．楽譜をできるだけ確実なものにするために、可能な場合には多くの演唱を録音、採譜し、偶然生じたと思われる音の動きや音の長さなどを除くようにしながら楽譜を作成した。
（採譜は、主に1974．9．27に地元で保存用に作成されたテープのコピー…1981．9．12　小林公江・小林幸男…を用いた。また、1981．9…小林幸男・小林公江、1983．9…金城厚・金城邦子・小林幸男・小林公江、1995．9…小林公江…の調査時の録音テープを参考とした。）

2．同様の理由で、楽譜は必ず採譜者以外の者の校閲を経ることとした。

2）楽譜について

1．楽譜は読みやすくするために、できるだけ調号を用いずに記した。但し、同系旋律曲との関連や、音域の点から調号を用いる場合もある。

2．実音の音高は楽譜の下段に“記譜は実音より長2度低い”という形で記した。

3．半音より狭い音程は↑↓で記した。↑↓は#♭とは違い、それが付いている音にのみ有効である。

4．音符で書き表わせない音高は、それに近い位置に×で記した。

5．テンポは、ウスデークが集団舞踊であるため、歌唱のみのものではなく、実際に踊っている時のものを採用した。（池原では実況でも故老の演唱テープを使用するため、このテープのテンポを採用している。）

6．拍子は2拍子を基本に、歌詞や他字の同系旋律曲の拍子等を考慮に入れて区切った。このため、3拍子や8分の5拍子などもみられる。

7．演唱者・番数などによって旋律に違いが見られる場合は、音符を上下にして記した。番数による違いは音符の上下に該当する番数を記入した。また、歌詞により旋律の1部を省略する場合には歌詞中に→で示した。

8．（　）のついた音符は必ずしも歌われるとは限らないことを表している。なお、休符もこれに準じる。

9．楽譜中の歌詞は上句と下句で同じ旋律を反復するものは2節、反復しないものは4節まで（3節までしかないものもある）を記している。記入していない歌詞は楽譜の歌い方に準じる。なお、歌詞によって歌い方が異なる場合は異なる歌い方を全部記した。

10. 楽譜の歌詞で用いられる〈　〉は踊り手が歌う部分を示している。

11. 曲名は地元の呼称をカタカナで記し、(　)内に踊りの種類、(手踊り・四ツ竹踊り・扇踊り)を記した。

3) 歌詞について

1. 歌詞は漢字まじりの平仮名で記し、掛け声や囃し詞は漢字まじりの片仮名で記した。

2. 歌詞の表記に際しては、産み字や囃し詞などを区別するために以下のような記号や文字を用いた。

カタカナ・・・囃し詞、産み字など。

{　}・・・歌詞を反復する部分。踊り手による囃し詞の挿入や地謡の息継ぎによる反復や産み字など。

〈　〉・・・踊り手が歌う囃し詞あるいは掛け声など。この記号は楽譜中でも同様に用いられる。

※ 備　考

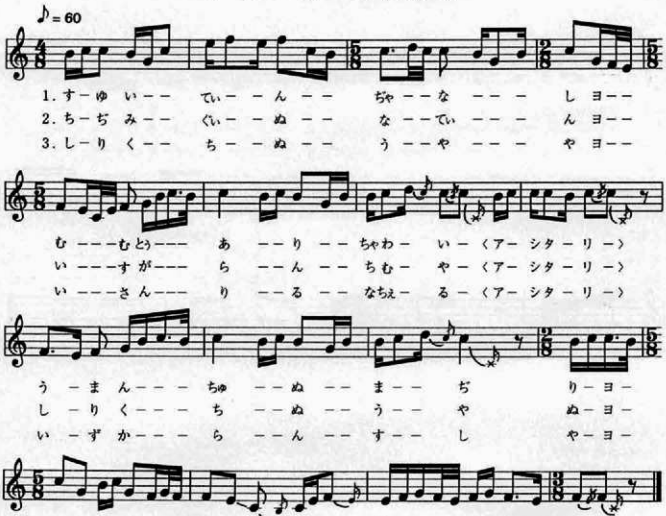
楽譜の下の歌詞は小林公江作成。歌詞についての記述は事務局作成の「Ⅲ歌詞について」に記されている。

〈採譜及び校閲〉

採譜者：小　林　公　江

校閲者：小　林　幸　男

1 首　里　節（手踊り）



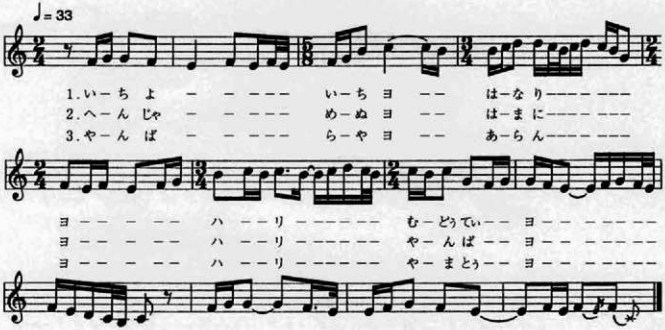
実音は短６度低い

1．首里天加那志ヨ　百とぅありちゃわい　〈アーシタリ〉
御万人ぬまぢりヨ　拝でぃ辨りらヨンナ

2．鼓声ぬ鳴てぃんヨ　いすがらん肝や　〈アーシタリ〉
後口ぬ親ぬヨ　産しゅふらちヨンナ

3．後口ぬ親やヨ　いさんりる産ちぇる　〈アーシタリ〉
いづからんすしやヨ　やるぬ生まいヨンナ

2 伊計離（四ツ竹踊り）



実音は短3度低い

1. 行ちよ伊計ヨ離り　ヨーハリ　戻てぃヨ浜ヨ　ヘイヨ平安座ヨ

2. 平安座前ぬヨ浜に　ヨーハリ　山原がヨ　ヘイヨ着ちょんヨ

3. 山原やヨあらん　ヨーハリ　大和ヨ行ちヨ　ヘイヨ戻いヨ

3 恩納節（扇踊り）

♩= 31

1. サーヨ　うんなー　ーまー　ーーーーーちーーーヨー　し　〈アーシーータリ〉
1R.　くいしー　ーぬー　ーーーーぶーーーヨー　ま　〈アーシーータリ〉
2. サーヨ　うんなー　ーだー　ーーーーきーーーヨー　ぬ　〈アーシーータリ〉
2R.　うんなー　ーみー　ーーーーやーーーヨー　ら　〈アーシーータリ〉

しーたー　ーーーーにー　ヤーリヨ　ーー　ーーリーーーー　ヨ　ーー
まーでぃー　ーーーーぬー　ヤーリヨ　ーー　ーーリーーーー　ヨ　ーー
ぬーぶー　ーーーーてぃー　ヤーリヨ　ーー　ーーリーーーー　ヨ　ーー
らーびー　ーーーーぬー　ヤーリヨ　ーー　ーーリーーーー　ヨ　ーー

1.

ちーーぢーー　ぬーーーへー　ーーーーー　ぬ　ヨーーーー　たーーーつーー
ちーーぢーー　やーーーねー　ーーーーー　さ　アーーみー
うーーしーー　くーーーだー　ーーーーー　い　ヨーーーー　みーーーりーー
てぃーーふーー　いーーーづー　ーーーーー　ら　アーーさー

2.

ーーしーー　サーーヨス　ーラーイ　サーーヨス　ーラーイ
ーーばーー　サーーヨス　ーラーイ　サーーヨス　ーラーイ

実音は長３度低い／３節目は省略

1. サヨ　恩納松ヨし〈アーシタリ〉　下に　ヤリヨリヨ　禁止ぬへぬヨ立つし　サヨ　スーライ
恋忍ぶヨま〈アーシタリ〉　迄ぬ　ヤリヨリヨ　禁止や無さ｛ア｝み　サヨ　スーライ

2. サヨ　恩納岳ヨぬ〈アーシタリ〉　登てぃ　ヤリヨリヨ　押し下いヨ見りば　サヨ　スーライ
恩納みやヨら〈アーシタリ〉｛ら｝びぬ　ヤリヨリヨ　手振い清ら｛ア｝さ　サヨ　スーライ

3. サヨ　恩納松ヨが〈アーシタリ〉　金が　ヤリヨリヨ　踊いせるヨ笠や　サヨ　スーライ
端やしんヨう〈アーシタリ〉｛う｝きてぃ　ヤリヨリヨ　玉ぬ下が｛ア｝てぃ　サヨ　スーライ

4 城（グシク）　節（ブシ）（四ツ竹踊り）

♩= 33

1. ぐ し ー ー　く ー ー ー ー　か ー ら ー ー ー　う ー り ー ー ー ー　ち ー ー　ー ー ー
1R. た る ー ー　に ー ー ー ー　ゆ ー く ー ー ー　さ ー り ー ー ー ー　ち ー ー　ー ー ー
2. ゆ く ー ー　さ ー ー ー ー　り ー ん ー ー ー　あ ー ら ー ー ー ー　ぬ ー ー　ー ー ー
2R. し ぐ ー ー　く ー ー ー ー　あ ー み ー ー ー　ふ ー ち ー ー ー ー　ど ー ー　ー ー ー

さ ー ん ー ー ー ー　と ー ー ー ー　ち ー ー ー　ぬ ー ー ー　か ー ぢ ー ー ー ー
な ー ま ー ー ー ー　ち ー ー ー ー　な ー ー ー　と ー ー ー　な ー と ー ー ー ー
ひ ー か ー ー ー ー　さ ー ー ー ー　り ー ー ー　ん ー ー ー　あ ー ら ー ー ー ー
な ー ま ー ー ー ー　ち ー ー ー ー　な ー ー ー　と ー ー ー　な ー と ー ー ー ー

り ー サ ー サ　ツ ラ ー ヨ ー　ツ ラ ー ー ヨ ー ー　ー ー フ ー ク ー ー　ー ー レ ー ー
が ー サ ー サ　ツ ラ ー ヨ ー　ツ ラ ー ー ヨ ー ー　ー ー フ ー ク ー ー　ー ー レ ー ー
ぬ ー サ ー サ　ツ ラ ー ヨ ー　ツ ラ ー ー ヨ ー ー　ー ー フ ー ク ー ー　ー ー レ ー ー
る ー サ ー サ　ツ ラ ー ヨ ー　ツ ラ ー ー ヨ ー ー　ー ー フ ー ク ー ー　ー ー レ ー ー

実音は完全５度低い／３節目は省略

1. 城（くすく）から降（ふ）りてぃ　中時（さんとちゅ）ぬ限（かぎ）り　ササ　ツラヨ　ツラヨ　フクレ

誰（たぁ）にゆくさりてぃ　な迄（までぃ）なと（なと）が　ササ　ツラヨ　ツラヨ　フクレ

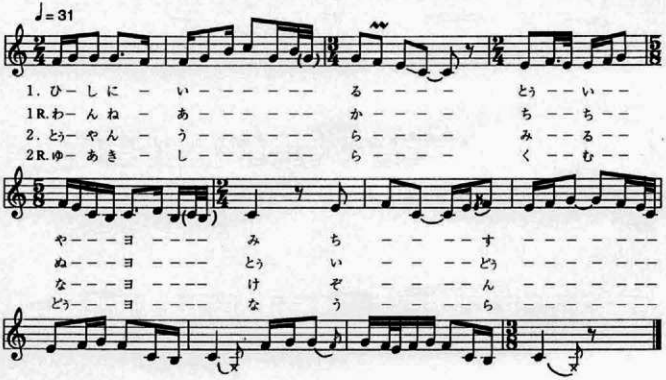
2. ゆくさりんあらぬ　引（ひ）かさりんあらぬ　ササ　ツラヨ　ツラヨ　フクレ

至極雨（しぐくあま）降てぃどぅ　な迄（までぃ）なと（なと）る　ササ　ツラヨ　ツラヨ　フクレ

3. 至極雨降てぃん　片時（かたとちゅ）どぅ降ゆる　ササ　ツラヨ　ツラヨ　フクレ

ちゃふい降る雨ぬ　世界（しけ）にあゆ（あゆ）み　ササ　ツラヨ　ツラヨ　フクレ

5 干瀬節（手踊り）



実音は短2度低い／3節目は省略

1．干瀬（ひし）に居る鳥（たい）やヨ　満潮（みちす）恨みゆい　〈ササ　恨ミユイ〉

吾（あか）んね暁（あかつき）ぬヨ　鳥どぅ恨みゆる　〈ササ　恨ミユル〉

2．鳥（とぅや）ん恨みるなヨ　開静（けぜ）ん恨みるな　〈ササ　恨ミルナ〉

夜（ゆ）明（しらく）き白雲どぅヨ　な恨｛恨｝みゆる　〈ササ　恨ミユル〉

3．干瀬（ひし）ぬ内ぐむにヨ　鯉（すく）ぬ寄（ゆ）てぃてぃむぬ　〈ササ　寄ティティムヌ〉

でぃちゃよ思童（うみわらび）ヨ　鯉しきが行かに　〈ササ　キガ行カニ〉

6 石(イシ)嶺(ンミー)（四ツ竹踊り）

♩=32

1. いーし　ん　ーーーー　み　ーー　ぬーヨ　ーー　み　ーーー
2. うーぬ　す　ーーーー　り　ーー　やーヨ　ーー　さ　ーーー
3. かーた　でい　ーーーー　し　ーー　やーヨ　ーー　ま　ーーー
4. かーい　み　ーーーー　じ　ーー　にーヨ　ーー　う　ーーー

ち　ーーー　かー　ーーーー　ら〈サ ユイサ〉　でい ら ーー　ーー
ち　ーーー　かー　ーーーー　ら〈サ ユイサ〉　み や ーー　ーー
く　ーーー　ウー　ーーーー　び〈サ ユイサ〉　か た ーー　ーー
り　ーーー　イー　ーーーー　でい〈サ ユイサ〉　ふ な ーー　ーー

ぬ　ーーーー　す　ーーーー　ーー　ーー　ーー　ば　ーー　ハーリ　ーーー
ら　ーーーー　び　ーーーー　ーー　ーー　ーー　や　ーー　ハーリ　ーーー
でい　ーーーー　し　ーーーー　ーー　ーー　ーー　や　ーー　ハーリ　ーーー
む　ーーーー　とう　ーーーー　ーー　ーー　ーー　や　ーー　ハーリ　ーーー

ま　ー　ー　アでい　ーー　ー　ーーーー　ぬ〈サ ユイサ〉
あ　ー　ー　とう　ー　ーー　か　ーーーー　ら〈サ ユイサ〉
さ　ー　ー　アく　ーー　とう　ーーーー　でい〈サ ユイサ〉
ち　ー　ー　ちゃ　ー　ーー　ー　ーーーー　い〈サ ユイサ〉

1.2

ワーガ　ーーー　ス　ーーーー　ナ　ーーーー　ーー　ーーーー　ヨ　ーー
ワーガ　ーーー　ス　ーーーー　ナ　ーーーー　ーー　ーーーー　ヨ　ーー
ワーガ　ーーー　ス　ーーーー　ナ　ーーーー　ーー　ーーーー　ヨ　ーー
ワーガ　ーーー　ス　ーーーー　ナ　ーーーー　ーー　ーーーー　ヨ　ーー

イーハ リーー　ウー　ネ　サンサーチ　ーーウーネシー　ーータ
イーハ リーー　ウー　ネ　サンサーチ　ーーウーネシー　ーータ
イーハ リーー　ウー　ネ　サンサーチ　ーーウーネシー　ーータ
イーハ リーー　ウー　ネ　サンサーチ　ーーウーネシー　ーータ

実音は完全４度低い

1．石嶺ぬヨ道から　〈サーユイサ〉　寺ぬ側ハリまアでぃぬ　〈サーユイサ〉

ワガスナーヨ　イハリ　ウネ　サンサチ　ウネシタ

2．うぬすりやヨ先から　〈サーユイサ〉　女童やハリ後から　〈サーユイサ〉

ワガスナーヨ　イハリ　ウネ　サンサチ　ウネシタ

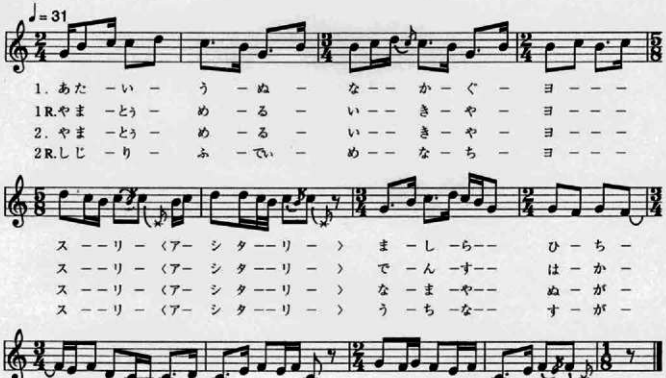
3．片手しやヨま首　〈サーユイサ〉　片手しやハリ的取てぃ　〈サーユイサ〉

ワガスナーヨ　イハリ　ウネ　サンサチ　ウネシタ

4．かい水にヨ下り｛イ｝てぃ　〈サーユイサ〉　船元やハリ着ちゃい　〈サーユイサ〉

ワガスナーヨ　イハリ　ウネ　サンサチ　ウネシタ

7　あたい学（ワク）（手踊り）



実音は完全５度低い／３節目は省略

1. あたい学（ウ）ぬ中子（なかご）ヨスリ〈アーシタリ〉　真白（ましら）引ちさぎてぃ　ユーイェ ユーイェ サユイェ

大和（やまと）めるいきやヨスリ〈アーシタリ〉　胴裳（どうも）袴ヨンナ　ユーイェ ユーイェ サユイェ

2. 大和めるいきやヨスリ〈アーシタリ〉　なまや何（ん）がみせら　ユーイェ ユーイェ サユイェ

硯筆前（しずりんでぃ）なちヨスリ〈アーシタリ〉　沖縄（うちな）すがいヨンナ　ユーイェ ユーイェ サユイェ

3. 船（ふに）ぬ艫（ともい）なかいヨスリ〈アーシタリ〉　白鳥（しらとり）が居ちょん　ユーイェ ユーイェ サユイェ

白鳥やあらぬヨスリ〈アーシタリ〉　御霊（うしで）力うないヨンナ　ユーイェ ユーイェ サユイェ

8　伊集の木（扇踊り）

♩= 33

1．いじゅー　ぬ－　－　き－－－　－－－や－〈シタリ〉ゆ－か－－
1R. わに－　ん－　－　い－－－　－－－じゅ－〈シタリ〉ぬ－ぐ－－
2．でぃぐ－　ぬ－　－　き－－－　－－－や－〈シタリ〉ゆ－か－－
2R. わに－　ん－　－　でぃ－－－　－－－ぐ－〈シタリ〉ぬ－ぐ－－

－－てぃ－－　ハリヨ－ウーネ　まーし－ら－－ヨ－－－
－－とぅ－－　ハリヨ－ウーネ　まーし－ら－－ヨ－－－
－－てぃ－－　ハリヨ－ウーネ　あーか－さ－－ヨ－－－
－－とぅ－－　ハリヨ－ウーネ　あーか－さ－－ヨ－－－

はーーーな　〈シータリ〉さーーーー－ちゅー－－－い－ハリヨ－
はーーーな　〈シータリ〉さーーーー－かー－－－な－ハリヨ－
はーーーな　〈シータリ〉さーーーー－ちゅー－－－い－ハリヨ－
はーーーな　〈シータリ〉さーーーー－かー－－－な－ハリヨ－

実音は完全４度低い／３節目は省略

1．伊集ぬ木や〈シタリ〉良かてぃ　ハリヨーウネ　真白ヨ花〈シタリ〉咲ちゅい　ハリヨ

吾にん伊集〈シタリ〉ぬ如　ハリヨーウネ　真白ヨ花〈シタリ〉咲かな　ハリヨ

2．梯梧ぬ木や〈シタリ〉良かてぃ　ハリヨーウネ　赤さヨ花〈シタリ〉咲ちゅい　ハリヨ

吾にん梯梧〈シタリ〉ぬ如　ハリヨーウネ　赤さヨ花〈シタリ〉咲かな　ハリヨ

3．支度しち〈シタリ〉支度　ハリヨーウネ　出ぢてぃヨ参る〈シタリ〉びけい　ハリヨ

確とぅ振い〈シタリ〉ちらち　ハリヨーウネ　戻てぃヨいめ〈シタリ〉｛いめ｝み　ハリヨ

9 ザンナ（四ツ竹踊り）

♩= 33

1．じゃーんーな－ ヨ－－－ ていーるとぅー －〈アーシータリ〉
1R．んーじゃーとぅー ヨ－－－ ぬーめがー －〈アーシータリ〉
2．いーしーちゃー ヨ－－－ かーらかー －〈アーシータリ〉
2R．んーじゃーとぅー ヨ－－－ ぬーめがー －〈アーシータリ〉

1.

とぅ－－ い－－－ や－アーセ －－とぅら－
が－－ な－－－ し－アーセ
か－－ き－－－ ていーアーセ －－ゆぢ－
が－－ な－－－ し－アーセ

ぬ－ヨ－－ とぅーい－ ヨ－てい－－ ていーむ－ ぬ－アーセ
ひゃ－ヨ－－ ぐーん－ ヨ－ま－－ ま－でぃー ん－アーセ

－ヨースラ－ ジャンーナ－ ヨ－－ んじゃーとぅ－
－ヨースラ－ ジャンーナ－ ヨ－－ んじゃーとぅ－

2.

ヨ－ぬ －とぅーや－－ い－ヨ－ うぇ〈シタリ〉
ヨ－ぬ －うーか－－ き－ヨ－ うぇ〈シタリ〉

さ－－－な－ アーセー －ヨースラ－ ジャンーナ－ ヨ
じ－－－ま－ アーセー －ヨースラ－ ジャンーナ－ ヨ

実音は長3度低い／3節目は省略

1．じゃんなヨてぃるとぅ〈アーシタリ〉鳥(とぅい)や　アセ

取(とぅ)らぬヨ鳥(とぅい)ヨてぃ｛てぃ｝むぬ　アセ　ヨースラジャンナヨ

美里(んじゃとぅ)ヨぬ｛美里ヨぬ｝前加(ぬが)〈アーシタリ〉｛が｝那志(なし)　アセ

取(とぅ)やいヨうぇ〈シタリ〉さな　アセ　ヨースラジャンナヨ

2．石川(いしちゃ)ヨからか〈アーシタリ〉｛か｝きてぃ　アセ

与儀比屋根(ゆぎひゃぐん)ヨま迄(ま)でぃ　アセ　ヨースラジャンナヨ

美里ヨぬ｛美里ヨぬ｝前加〈アーシタリ〉｛が｝那志　アセ

うかきヨ親(うや)〈シタリ〉島(しま)　アセ　ヨースラジャンナヨ

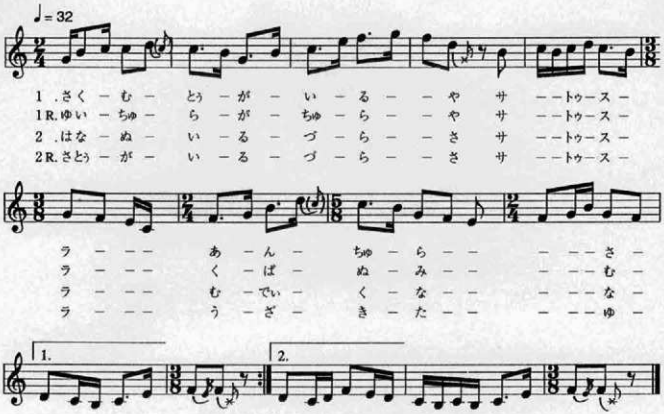
3．美里ヨぬ前加〈アーシタリ〉｛加｝那志　アセ

乗いみヨせるヨう馬(ぅぅま)や　アセ　ヨースラジャンナヨ

爪(ちめ)やヨあ｛爪(ちめ)やヨあ｝いぢくアー〈アーシタリ〉　爪(ちりん)ぬ　アセ

真黒(まくる)ヨか〈シタリ〉んぢ　アセ　ヨースラジャンナヨ

10 坂本（サクムトゥー） （扇踊り）



実音は完全4度低い／3節目は省略

1．坂本（さくむとぅ）がいるや　サトゥスラ　あん清（ちゅ）らさあ｛あ｝むぬ

ゆいちゅらが清らや　サトゥスラ　くばぬ三本（みむとぅ）　サヨジャンナヨ

2．花ぬ色（いぐ）清らさ　サトゥスラ　むでぃくなな小（ぐ）｛小｝花（ばな）

里（さとぅ）が色清らさ　サトゥスラ　うざきたゆり　サヨジャンナヨ

3．庭ぬむでぃくなな　サトゥスラ　物言（ゆ）やんび｛び｝けい

頼（たゆ）い打ち向（ぐ）かてぃ　サトゥスラ　笑てぃ咲つさ　サヨジャンナヨ

11　そんがね（四ツ竹踊り）

♩=34

1．あーだーき　ーーあーる　ーー　ーーはーな　ーー　ーぬ　ーーーー
1R. みーむーとぅ　ーーふーや　ーー　ーーぎーや　ーー　ーい　ーーーー
2．でぃーちゃーよ　ーーうーし　ーー　ーーちーり　ーー　ーてぃ　ーーーー
2R. きーゆーや　ーーなーに　ーー　ーーたーつ　ーー　ーる　ーーーー

ーーむてぃーぬ　ささーー　ーーりーゆ　ーー　ーーみーアセー
ーーうがーだ　びけーー　ーーいーヨ　ーー　ーンナーアセー
ーーあしーび　かいーー　ーーいーか　ーー　ーーにーアセー
ーーじゅぐーや　でむーー　ーーぬーヨ　ーー　ーンナーアセー

ソンガ　ーネースリ　ーーソーンーガ　ーーネー
ソンガ　ーネースリ　ーーソーンーガ　ーーネー
ソンガ　ーネースリ　ーーソーンーガ　ーーネー
ソンガ　ーネースリ　ーーソーンーガ　ーーネー

実音は完全4度低い／3節目は省略

1．あだきある花ぬ　むてぃぬささりゆみ　アセ　ソンガネ　スリ　ソンガネ

みむとぅふやぎやい　拝だびけい　ヨンナ　アセ　ソンガネ　スリ　ソンガネ

2．でぃちゃようし連りてぃ　遊びかい行かに　アセ　ソンガネ　スリ　ソンガネ

今日や名に立つる　十五夜でむぬ　ヨンナ　アセ　ソンガネ　スリ　ソンガネ

3．打ち鳴らす鳴らす　四ち竹ゆ鳴らす　アセ　ソンガネ　スリ　ソンガネ

鳴らす四ち竹ぬ　音ぬ清らさ　ヨンナ　アセ　ソンガネ　スリ　ソンガネ

12 鋏(ハサン) ザーラー（扇踊り）

♩=31

1 .はさ ーん ざー ら ーー ヨ ー み み ーーー か ー
1R.さとう ーが くー とう ーー ヨ ー う う ーーー む ー
2 .あが ーり たー ち ーー ヨ ー く く ーーー む ー
2R.あし ーび しー ぬ ーー ヨ ー く く ーーー ゆ ー

ー ーち ーー サー ーー たーーー すーー る ーー ぬ ー
ー ーてい ーー サー ーー たーーー しーー ゆ ーー ま ー
ー ーや ーー サー ーー ゆーーー がーー ふ ーー し ー
ー ーる ーー サー ーー わーーー しーー ま ーー じゅ ー

ぬ ーーヨ ー やー ーー やーーー しーー ーー が ーー
み ーーー ー じー ーー
ぬ ーーヨ ー くー ーー くーーー ゆーー ーー い ーー
ぐ ーーー ー やー ーー

サー ーー ヤーーーリーー サー ジャン ナー ヨ
→ ヤーーーリーー サー ジャン ナー ヨ
サー ーー ヤーーーリーー サー ジャン ナー ヨ
→ ヤーーーリーー サー ジャン ナー ヨ

実音は完全4度低い／3節目は省略

1. 鋏(ほさん)ざらヨみ｛み｝かち サ 断(た)する布(ぬの)ヨや｛や｝しが サ ヤリ サージャンナヨ
里(さと)が事(くさ)ヨう思(うむ)てぃ サ たしゆまみじ ヤリ サージャンナヨ

2. 東立(あがり)ちヨく雲(くむ)や サ 世果報(ゆがふ)しぬヨく｛く｝ゆい サ ヤリ サージャンナヨ
遊(あそ)びしぬヨく｛く｝ゆる サ 吾島十五夜(わじゅうごや) ヤリ サージャンナヨ

3. 月(ちき)ん眺ヨみ｛み｝たい サ でぃちゃよ立ちヨむ戻(むどぅ)ら サ ヤリ サージャンナヨ
里(さと)や吾が宿(やどぅ)に サ 待ちゅらでむぬ ヤリ サージャンナヨ

Ⅲ　歌詞について

凡例　①＊［　］の部分は琉歌全集に基づく節名と歌詞である。

②池原で歌われている歌詞と琉歌全集の歌詞が異なる部分は網かけをした。

③「　」は琉歌全集に基づく節名である。

④＊［　］と「　」のない部分は、琉歌全集にみることができなかったものである。

1　首里節（スイ　ブシ）

1　首里天ぎやなし（しゅいでぃんじゃなし）　ももとわれちよわれ（むむとぅわりちょわり）　お万人のまぎり（うまんちゅぬまじり）　拝ですでら（ぬぇがでぃすぃでぃら）

〔歌意〕　首里の国王さま、千年万年幾久しくおわせませ。天下の万人皆そろってこのありがたい御代を仰ぎ、御威徳をお慕い申し上げます。

＊［琉歌全集では「長ぢゃんな節」となっている］

2　鼓声ぬ鳴てん（ちぢんぐぃぬなてぃん）　急がらぬ肝や（いすがぐとぅらぬちむや）　しりくちぬ親ぬ（しりくちぬうやぬ）　なしゆふらち（なしゆふぐとち）

〔歌意〕　若者たちが楽しそうに遊んでいる鼓の音が聞こえてくると気持ちがおちつかない。遊びに行きたいが両親の承諾がえられない。

3　しりくちぬ親や（しりくちぬうやや）　いさんりる産ちぇる（いさんりるなちぇる）　いづからんすしや（いじかぐとんすしや）　いゃるぬ生まり（いゃどぅぬんまり）

〔歌意〕　両親は私の成長を楽しみにし、私の手助けを目当てにしている。そういう家に生まれて遊びに行けないのは、あなたの運命である。

2 伊計離節

1 いけば伊計離　もどて浜平安座「伊計離節」

〔歌意〕 行けば伊計離島、戻れば浜比嘉島や平安座の島々。

2 平安座前の浜に　山原が着きをん「伊計離節」

〔歌意〕 平安座島の浜には山原から来た船を繋いでいる。

3 山原やあらぬ　大和行きもどり「伊計離節」

〔歌意〕 いや、あれは山原船ではない。大和へ行ってきた船である。

＊［琉歌全集では　大和もどり　になっている］

3 恩納節

1 恩納松下に　禁止の牌の立ちゅす　恋忍ぶまでの　禁止やないさめ「恩納節」

〔歌意〕 恩納村の役場前の松の木の下に、いろいろな禁止事項を書いた立て札を立てているが、恋をするなとの立て札はあるはずがない・・・・・。

2 恩納岳登ぼて　おし下り見れば　恩納美らびぬ　手振りきょらさ

〔歌意〕 恩納岳に登って、ふもとの方を見ると、恩納の松並木の枝振りがきれいでそれはちょうど、恩納みやらびの踊りの美しさを思い出させるものがある。

＊［琉歌全集では「上恩納節」で 松金が になっている］

3 恩納松金が　踊りせる笠や　はたやしんうきて　玉のさがて

〔歌意〕 恩納松金が踊りにかぶる笠のふちは、金色に輝き、それに加えて玉が飾られているのでとてもきれいである。

4 城節（グシク ブシ）

1 城から下りて　申時のかぎり　誰によこされて　なまでなとが

〔歌意〕 お城から退出するのは、午後4時と決まっていますが、誰に誘われてこんなに遅くなったのでしょうか。

＊［琉歌全集では「首里節」で なまでまうちやが となっている］

2 よこされもあらぬ　ひかされもあらぬ　至極雨降てど　なまでなとる

〔歌意〕 誘惑されたのでもなく、袖を引っ張られたのでもない。ものすごい大雨で遅くなったのだ。

＊［琉歌全集では「首里節」 着ちゃる となっている］

3 至極雨降ても　片時ど降ゆる　ちゃ降い降る雨の　世界にあゆみ

〔歌意〕 大雨とはいっても一時のことでしょう。一日中降る雨というものがあるでしょうか。

＊［琉歌全集では「首里節」で 至極雨てすも時の間ど 降ゆる きやはる となっている。］

5 干瀬節（ヒ レ ブシ）

1 干瀬にをる鳥や　満潮恨めゆり　我身ね暁の　鶏ど恨めゆる「干瀬節」

〔歌意〕 干瀬に休んでいる千鳥は潮が満ちてくると飛び立たねばならないので満潮を恨み、恋人と一緒にいる私は暁の鶏が鳴けば別れなければならないので暁の鶏の鳴き声を恨めしく思うのである。

2 鳥ん恨めるな　開鐘恨めるな　夜明き白雲る　な恨ゆめる

〔歌意〕 鳥を恨んではいけない。朝を告げる寺の鐘の音も恨んではいけない。それにしても夜明けの白雲が恨めしく思う。

3 干瀬ぬ内小堀に　すくの寄てでめ　でぃきゃよ思童　すくしきが行かに

〔歌意〕 干瀬の潮だまりにスクが打ち寄せた。子供たちも一緒にスク取りの網を引きに行こう。

6 石嶺節（イシ ンミー）

1 石ん根の道から　寺の側までも　主部衆や先から　女童や後から

〔歌意〕 石ん根の道（在番役人の勤める御仮屋から漲水港へ通じる石畳の道）からお寺の側までも、男衆は先だて女たちは後ろからついて行く。

＊［琉歌全集では「石ん根の道節」となっている］

2 片手しや首だち　片手しや酌とて　張水に降りて　船元に登て
(1) (2)

〔歌意〕 片手ではお互いの首をだき、もう一方の手では別れの酌を取り交わす。漲水港に降りて船に乗り、沖縄へ帰る里主をお送りしましょう。

＊［琉歌全集では「石ん根の道節」となっていて歌番は(2)(1)の順序である］

7 あたい学節

1 あたい学のなかご　真白ひき晒るち　大和めるるきが　どんしょ袴

〔歌意〕 屋敷内の畑に作った芭蕉の中子を真白に晒して、大和旅に行く兄弟の美しい胴衣袴を作ってあげよう。

＊［琉歌全集では「綿花節」とあり歌詞は
あたりをのなかご　真白ひき晒るち　旅にいまゐる里が　どんしょ袴　とある］

2 大和めるるきや　今は何がみせら　硯筆前なち　沖縄すがい

〔歌意〕 大和にいる兄弟は今は何をしているのだろうか。沖縄の衣装を着て硯に向かい沖縄に帰る準備をしているんでしょうねぇ。

3 船ぬともなかい　白鳥がゐちゃうん　白鳥やあらぬ　おすじ思姉

〔歌意〕 お船の艫の高い所に白鳥が止まっている。あれは白鳥ではなく姉の霊神、即ちをなり神である。

＊［琉歌全集では「白鳥節」とあり歌詞は
お船のたかともに　白鳥がゐちやうん　白鳥やあらぬ　思姉おすじとある］

8 伊集の木節

1 伊集の木やゆかて　真白花咲きゆり　吾にん伊集の如　真白花咲かな

〔歌意〕 伊集の木の花はあんなにきれいに咲いている。私も伊集の花のように真白に咲きたい。

＊［琉歌全集では「辺野喜節」とある］

2 梯梧の木やゆかて　赤さ花咲きゆり　吾にん梯梧如　赤さ花咲かな

〔歌意〕 梯梧の木は真っ赤な花を咲かせてとても奇麗である。私も真っ赤に咲く梯梧の花のように咲きほこりたい。

3 支度しち支度　出ちて参るびけい　しかと振いちらち　戻ていめみ

〔歌意〕 モーアシビーにいくためにおしゃれするのであれば、うんとおしゃれをしてしっかりとみせびらかして、戻っていらっしゃい。

9 ザンナー節

1 ざんなてる鳥いや　取らぬ鳥でもの　美里ぬ前加那志　とやいうぇさな

〔歌意〕 ザンナという鳥を取ろうとするがとることができないでいる。それを美里前加那志が取って下さるという。

2 石川からかきて　与儀比屋根までん　美里ぬ前加那志　うかき親島

〔歌意〕 石川から与儀、比屋根部落に至るまで、美里里前の治める島々である。

3 美里ぬ前加那志　乗いみせる馬や　爪や綾爪ぬ　真黒かんじ

〔歌意〕 美里里前のお乗りになる馬は、ヒズメも立派で毛並みも真っ黒ですばらしい馬である。

10 坂本節

1 坂本がいぴや　あんぢらさあもの　よよぎよらが清らさ　くばの三本

〔歌意〕 徳之島の坂本の拝所には、マーニの木が美しく生え、クバの木も3本生えていて神々しい所である。

＊［琉歌全集でも「坂本節」とあるが歌詞は　坂本のいぴや　だんちよ豊まれる　よよぎよらが一本　こばの三本とある］

2 花ぬ色清らさ　むいくばな小花　里が色清らさ　うざきたゆい

〔歌意〕 数ある花の中で白く小さく咲くむいくばな（ジャスミンの花）は趣がある。里のお顔がほんのり色づいて美しいのはお酒のせいである。

＊［琉歌全集では「相聞歌」の中にあり　歌詞は　花の色きよらさ　もいこ花こ花　里前色きよらさ　大和戻りとある］

3 庭ぬむいくばな　ものゆ言やむばかり　たるにうち向かて　笑で咲きゆが

〔歌意〕 庭の白い小花は何かをいわんばかりに、誰かに向かって笑い咲いているようだ。

11 そんがね節

1 あだきある花の むてんささりゆみ めもとふやぎやい うがたばかり

〔歌意〕 あんなに高い所に咲いている花を、取ってさすことはできないので、ただ見上げるばかりである。

2 できやよおしつれて 遊びかい行かな 今日は名に立ちゅる 十五夜でむぬ

〔歌意〕 一緒につれ立って月見をして遊びましょう。今日は名高い十五夜ですもの。

＊［琉歌全集では「遊諸鈍節」にあり 歌詞は
できややうしおしつれて 眺めやり遊ば けふや名に立ちゆる 十五夜だいものとある］

3 打ち鳴らす鳴らす 四ツ竹ゆ鳴らす 鳴らす四ツ竹の 音の清らさ

〔歌意〕 四ツ竹を鳴らしながら踊っている姿も美しいが、四ツ竹の音も軽やかに鳴り響き気持ちよいものである。

＊［琉歌全集には「賀頌」にある］

12 ハサンザラ節

1 鋏ざらみかち 断する布やしが 里が事うもて たしゆまみじ※

〔歌意〕 鋏の音も高く布を断たないといけないが、里のことを思って思うように鋏の使いができない。

（※に「袖からが入ゆら 脇からが入ゆら」と続いていたが、現在は歌われてない）

2 東立つ雲や 世果報しにゅくゆい 遊びしにゅくゆる 吾島十五夜

〔歌意〕 東の朝やけの雲は豊年の印（兆し）のようだ。村の人々は十五夜遊びの準備に余念がない。

＊［琉歌全集には「立雲節」とあり 二十めやらび とある］

3 月も眺めたり でかやう立ち戻ら 里やわが宿に 待ちゅらだいもの

〔歌意〕 月も眺めたし、そろそろ帰りましょう。わが家には想い人が待っていらっしゃるだろうから。

＊［琉歌全集には「しやうんがない節」とある］

Ⅳ 結　び

ウスデークなどの無形文化財は特定の地域のみで継承されてきました。伝承者の高齢化や時代のうつろいと共に次第に消え去ったり、変化をよぎなくされていることから、記録として残すことになったものです。今回の池原におけるウスデーク報告を第一段階とし、他地域に残っているウスデークの記録も報告していきたいと考えております。

このように、無形の文化財を活字として残すことも一つの方法ではありますが、地元においてずっと継承されていくことを願うものです。

この報告書の発刊にあたり、池原自治会長の佐渡山氏をはじめ地元有志の皆さん、京都女子大の小林公江先生・京都教育大の小林幸男先生、沖縄市文化財調査審議会委員の比嘉悦子氏、比嘉賀盛氏に多大なるご協力を賜りました。心よりお礼申し上げます。

Ⅴ 関係資料

（参考文献）

糸満市教育委員会編　『米須ウシデーク』糸満市文化財調査報告第３集　糸満市教育委員会　1983年５月。

沖縄市史編集委員会編　『沖縄市史－近代期の新聞にみる歴史－』第八巻（資料編７・上）沖縄市教育委員会、1986年11月。

沖縄市図書館編　『沖縄市史－近代期の新聞にみる歴史－』第八巻（資料編７・下）沖縄市教育委員会 1988年３月。

沖縄長寿センター緑樹苑編　『ニコニコ情報－竹とんぼ－』第29号　沖縄長寿センター緑樹苑 1997年11月。

島袋盛敏　『琉歌集』風土記社、1983年１月。

島袋盛敏・翁長俊郎　『標音評釈琉歌全集』武蔵野書院、1995年６月。

新城徳祐　『具志堅のシニーグ－古代伝統の祭－』私家出版、1973年８月。

比嘉悦子　「臼太鼓の音楽」『琉球文化と祭祀－民俗・説話・歌謡・芸能からのアプローチ－』福田晃・湧上元雄編　ひるぎ社、1987年８月。

与座臼太鼓復活推進委員会　『与座臼太鼓－復活の歩み－』与座臼太鼓保存会、1989年９月。

地元録音テープの演唱者名（1983年9月19日現在）

1	仲里マスイ	M25・ 3・10	池原	409
2	島村カマ	M37・ 6・10	池原	148
3	島田ウト	M32・ 1・12	池原	78
4	町田シズ	T 8・11・10	池原	93
5	幸島マセイ	M33・ 2・10	池原	140
6	東　静恵	M40・ 6・25	池原	200
7	松島キヨ	T 8・11・10	池原	32
8	宇良マシ	M36・12・12	池原	962
9	島袋ムト	M33・12・20	池原	970
10	盛島カナ	M37・ 9・10	池原	94
11	島袋カマ	M44・ 2・20	池原	343
12	武田ヨシ	M44・12・28	池原	451
13	蔵島スエ	M45・ 6・10	池原	339
14	新島キク	T10・ 5・27	池原	152－1
15	新島よし子	T11・ 2・10	池原	207
16	島袋ムト	?・?・?	池原	?

1997年　池原ウスデーク参加者名簿

NO	名前	生年月日	NO	名前	生年月日
1	新島キク	T10. 5.27	17	仲里ヨシ	S 3.10. 2
2	仲里みつ	T11. 9. 9	18	呉屋和子	S 3. 7.14
3	座間味政子	T10. 5. 9	19	桜井恵美	S 5. 6.25
4	新島和子	T13. 6.17	20	呉屋良子	S 2. 9.28
5	新里　静	T14. 7.12	21	与那嶺ヤス	T13. 6.21
6	田島米子	T15.12.22	22	山田キヨ	T14. 6.16
7	仲村ヨシ	S 3. 4.28	23	喜名恵美子	T15. 2.17
8	大嶺ハル子	T15. 8.10	24	松下美代子	S 2.12.10
9	松下キヨ	T 8.11.10	25	伊波美代	S 2. 7.25
10	松村喜美子	T 9. 9. 8	26	島袋ヒデ子	S 3.11.19
11	島村トヨ	T元.10.10	27	与古田ヨシ	T 9.10. 3
12	与那嶺トシ	T 8. 3.25	28	島袋良子	T12. 2.23
13	島袋イワ	T元.11. 7	29	島袋ウト	M38. 6.?
14	島田カネ	S 4. 6.22	30	島袋シゲ	S 3. 5.20
15	仲嶺俊子	S 4. 3.20	31	照屋シゲ	T 7. 5.10
16	島袋秀子	S 5. 5.25	32	町田シズ	T 8.11.10

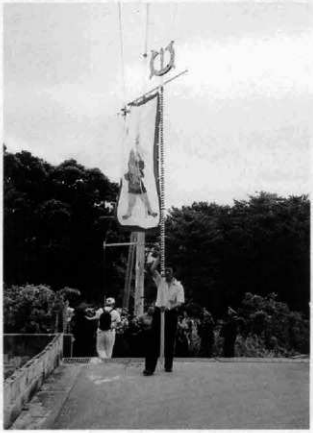
神屋に安置されている獅子

神屋の前に掲げられた旗頭（ウァーサー王）

神屋での拝み。獅子を鎮座して三線でカリーをつける

獅子に入る準備をする青年

スネーの開始



旗頭を先頭にスネーへ出発

スネーに参加するウスデークの婦人たち

ナーカアジマーでの厄払い
（スネーの途中）

アガリマーチュグムイ前の道での
厄払い（スネーの途中）

イーヌアシビナー前の道での
厄払い（スネーの途中）

イーヌアシビナーでの厄払い
（スネーの途中）

スネーが終了、シチャヌ
アシビナーの舞台

シチャヌアシビナーの入口に
掲げられた旗頭

神アサギ前でのウスデーク
（近景・北より）

同上（近景・南より）

イーヌアシビナーでのウスデーク

イーヌアシビナーでのウスデーク

シチャヌアシビナーでの
ウスデーク（遠景）

同上（近景）

シチャヌアシビナーでウスデークを終えてカチャーシーを踊る婦人たち

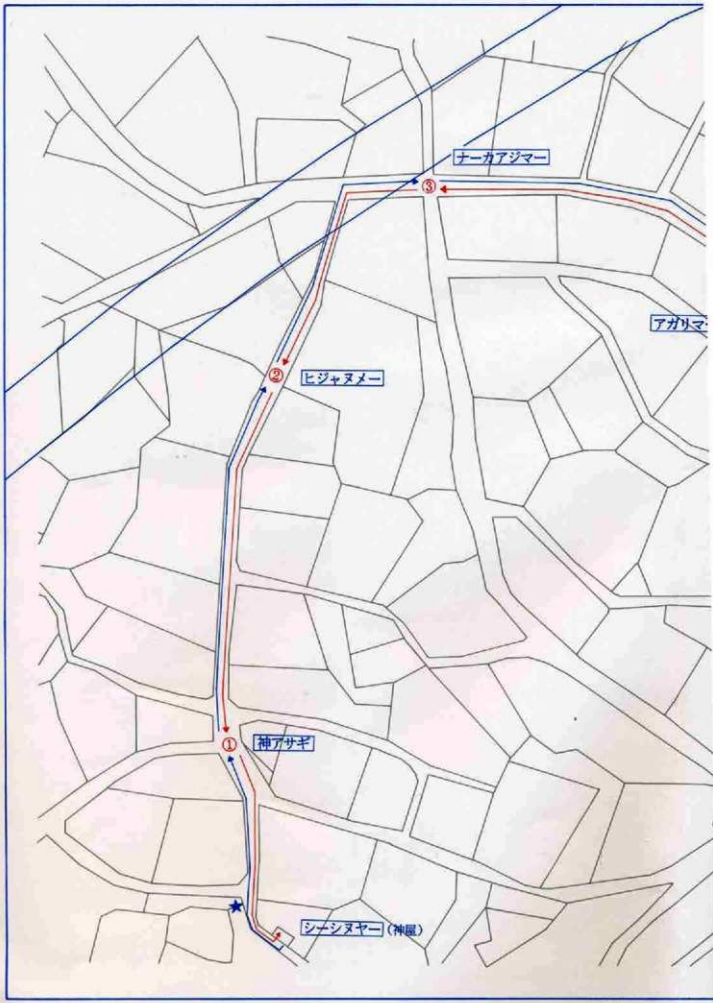
左：島袋ウト（93才）
右：島村トヨ（85才）
（椅子にこしかけている２人）

記念撮影（1997年旧暦８月15日）

「高平良万歳」

舞台から退座する獅子

「八月十五夜・敬老会」を終えて
帰りのスネー



〈旧 8 月15日のシーシウン

N
シチャヌアシビナー
⑦
④
⑤
⑥
イーヌアシビナー
【凡 例】
①～⑦ ：獅子が旗頭を中心に反時計方向に3回廻る場所
→ ：シーシウンチケーの順路（往路）
← ：シーシウンチケーの順路（帰路）
★ ：シーシウンチケーでの拝みの最中に旗頭を立てる所
◆ ：シチャヌアシビナーでの「十五夜アシビ」の最中に旗頭を立てる所
＝ ：現在の国道329号線
＊ ：①～⑦の不井然型集落は、沖縄市役所の「地籍重ね図」をアレンジして作成、これに文化財の位置をプロット

ー順路図〉

池原のウスデーク
沖縄市文化財調査報告書第21集
1998年3月10日　印刷
1998年3月31日　発行
発行　沖縄市教育委員会
沖縄市仲宗根町26－1
編集　沖縄市立郷土博物館
〒904－0031　沖縄市上地235－3
☎ 098－932－6882
印刷　光文堂印刷株式会社
☎ 098－889－1131